巻頭メッセージ

複眼

低 空 飛 行

秋田経済研究所
理事長　新谷　明弘

観光庁が毎月公表する「宿泊統計旅行調査」において、今年６月の秋田県の延べ宿泊者数が前年同月比34.4％増加し、全国で最も高い伸び率となりました。本県の宿泊者数は今年に入り増加が続き、５月にスタートした得旅キャンペーン「まだバレていない秋田県。」の成果として大変喜ばしい結果となっています。

６月には得旅キャンペーン第１弾の追加クーポンが発売され、そのプレスリリースの写真に湯沢市岩崎の人形道祖神“鹿島様”が使用されていました。「まだバレていない」観光の一つに鹿島様が登場したことに大変共感を覚えています。秋田の人形道祖神の魅力を伝える活動をしている「秋田人形道祖神プロジェクト」によると、全国にある約200体の人形道祖神のうち秋田県内にはその半分約100体があるとされ、秋田は日本一の人形道祖神の宝庫だといいます。

観光の中心は、祭りや温泉、食、桜や紅葉の景観、そして歴史的建造物などにあります。最近では映画のロケ地や漫画の舞台がSNSを通じて注目されることも増えていますが、私はその土地ならではの風習や文化に触れる観光が注目されることへ期待を寄せています。観光は「他国の光を観る」が語源といわれますが、「観る人に光（驚きや感動）を与える」だけでなく、「観る人がそこ（観光対象）に光（輝き）を与えてくれる」ものでもあると思います。観光の対象は非常に多様であり、秋田の風習や風土への関心が高まり何度も訪れたいという人が増えることを期待しています。人形道祖神とは何か、その存在と成り立ちまで掘り下げていくと驚きや興味は尽きません。

秋田のブランド米「サキホコレ」をデザインされた原研哉氏は、県のブランディング総合プロデューサーを務めておられます。先日秋田市で開催されたトークイベントでは、「秋田県の文化や祭り、風習などを体験し、県内外の人が秋田に興味を持ってもらえるようなデザインを展開していきたい」と抱負を語っておられました。

原研哉氏はデザインに関する本を数多く出版されていますが、その中に『低空飛行―この国のかたちへ』という本があります。「低空飛行」の意味は、地上の景色をつぶさに眺められる高度で日本の深部あるいは細部をくまなく見て回る旅をイメージした名称で、ウェブサイトでご自身が発信してきた内容が書籍になったものです。私は、足元にある価値をより深く掘り下げていくことが原氏のいう「低空飛行」の意味だと理解しています。

この本の一節に「日本文化は、・・実に独特であり、その本質は簡単には理解されない。理解にたどり着くには少し時間がかかる。しかし、それでいいのである。初見で驚かせるのではなく、少し時間が経ったのちにやってくる『分かる衝撃』こそ、より深い興味を喚起する引き金なのだ。」という文章があります。

人形道祖神に限るものではありませんが、足元にある多様な文化、風習、芸能などを「低空飛行」し、地域をより深く理解することも観光を考えるうえで大切です。湯沢市岩崎にある鹿島様は長年にわたりその地域で培われてきた風習や風土から生まれた「少し理解するのが難しい」存在です。しかし、その藁で作られたシンプルともいえる姿には「分かる衝撃」が隠されていると思います。

八幡神社の奥で、杉の巨木を背に鎮座する堂々たる姿の鹿島様に向き合うと、その土地の風土をもっと知りたいという衝動に駆られるのは私だけではないはずです。